

# 善勝寺だより

ZENSHOJI DAYORI

善勝寺だより第133号  
令和7年12月20日発行  
〒365-0013 埼玉県  
鴻巣市境147 善勝寺  
TEL 048-569-0810  
発行責任者 明見弘道

## 心平寿自長



(こころたいらなれば、いのち  
おのずとながし)

平成四年私が入寺して間もな  
く、師匠でもある騎西の保寧寺  
先々代住職熊田應其和尚から頂  
いた掛け軸の言葉です。

これは那須雲巖寺の老師八十  
八才の時の書です。

表装の裏には應其和尚の洒脱  
な字で「をんニコノ腹立てま  
いそわか」と書いてありました。  
表装を新しくしたときこの部分  
だけ剥がして額にして玄關に掛  
けております。

「オン○○○ソワカ」とは  
呪文のようなもので、真言宗や  
禅宗ではよく唱えます。例えば、  
お地藏様は「オンカーカーカビ  
サンマーエイソワカ」などとお  
唱えます。

応其和尚の傑作真言

「をんニコノ腹立てまいそわか」  
皆様もこの呪文是非覚えてい  
ただき、いつも唱えて下されば  
毎日がしあわせと感ずることが  
できるでしょう。

奇しくも本日届いた円覚寺の  
冊子『円覚』(横田管長のお話)

にも、「いろいろと課題も多く、  
困難なこともあります。まず  
ニコニコ笑顔で参りたいと思っ  
ています。天台小止観を講義さ  
れた松居先生は仰っています。  
人間は幸福だからニコニコす  
るのではない、ニコニコすれば  
幸福だと観じるのだと。  
また、修行によって目指す人  
格を、いつでも、どこでも、な  
にもものにもほほえむことができ  
る人だと説かれました。」  
さて、今年もあとわずかとな  
りました。檀信徒の皆様におか  
れましては何かと気ぜわしいこ  
とと存じますが、どうかお身体  
をいといつつお過ごし過ごし下  
さいますようお願い申し上げます。  
また、令和八年が皆様にとつ  
て良いお年でありますよう、心  
から念じております。

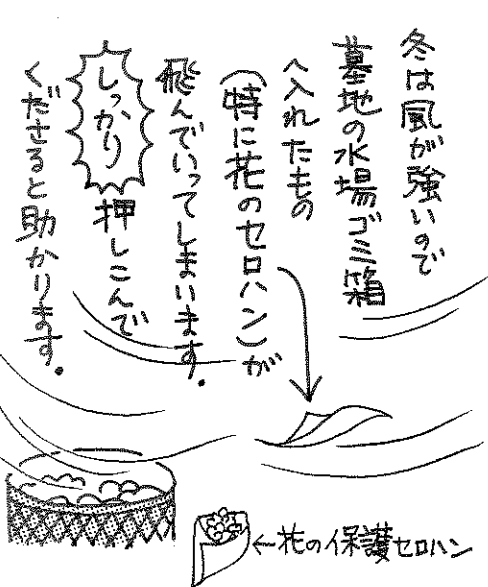
弘道合掌



### 令和八年(2026年)回表

老	周	忌	令和	七年
参	回	忌	令和	六年
七	回	忌	令和	二年
老	拾	参	平成	二十六年
老	拾	七	平成	二十二年
参	拾	参	平成	十六年
参	拾	七	平成	十二年
参	拾	七	平成	六年
五	拾	七	昭和	五十二年

来年、年忌法要が当たってお  
られますお宅にはすでに法事の  
知らせを郵送致しておりますが、  
法事の予約は三ヶ月前の一日か  
ら受け付けております。  
ご希望の日時が決まりましたら、  
お電話にてお問い合わせ下  
さい。



## 絶望名言

川端康成

今回の絶望名言は、川端康成です。日本で初めてノーベル文化賞を受賞した作家で、「伊豆の踊子」や「雪国」が有名です。

言葉が痛切な実感となるのは、痛切な体験のなかでだ。「虹いくたび」より

(頭木) 世の中には、素晴らしい名言とか素敵な言葉がたくさんありますよね。感動したり、なるほど思ったり。

でもそのまま聞き流してしまったり、感動したような気がしても、その時だけのことだったり。そういうことも多いと思うんです。

でもですね、自分が何か痛切な体験をしたときに、ふとその言葉がよみがえってくる。そうすると、そのときに初めて、その言葉が本当に切実なものとして心に染み入るといふことがあると思うんです。

(川野) 同じ言葉でも、違って感じられるということですか？

(頭木) たとえば私の場合で言うと、カフカの言葉ですが「将来に向かって歩くことは、ぼくにはできません。将来にむかってつまづくこと、これはできません。いちばんうまくできるのは倒れたままでいることです」なんでもないときに読めば、ちよつと笑っちゃう

ような言葉なんですけど、難病になつて、ベッドの中でずつと倒れたままでいるしかなくなつたときに、これを讀むとですね、それはもうなんとも痛切な言葉なんです。

(川野) なるほど。それはそうですね。

(頭木) やつぱり体験の中で言葉が痛切なものになっていくということは、川端康成が言っているように、あることだと思えますね。

(川野) でも痛切な体験をしてから言葉をさがすのは、なかなか難しいですよ。

(頭木) そうですね。やつぱり先に言葉を知っていて、何か体験をした時に、それを思い出して、痛切に感じるということですよ。ですから、日頃からいろんな言葉にふれておくって、すごく大事だと思うんです。

### 川端康成の絶望名言 二

忘れるに任せるというのが、結局最も美しく思ひ出すということなんだな。

(頭木) 川端康成は、小説を書くときに、自分の体験をもとにしていることがあつて、もちろん体験をそのまま書いているわけではなく、創作も入っているんですが、中でも「十六歳の日記」という作品は、本当に十六才(数え年)のときに、病気で寝たきりの祖父の介

護をしながら書いていた日記なんですね。

このとき、川端康成は、おじいさんと二人暮らしたんですけれど、このおじいさんが最後の肉親だったんです。母親と父親は三才になるまでにどちらも亡くなっているんです。おばあさんも七歳の時に亡くなって、四つ上のお姉さんがいたんですけれども、この人も川端康成が十歳のときに亡くなつて、最後の肉親のおじいさんが十六歳のときに亡くなるんです。

この祖父との最後の日々をつづつた「十六歳の日記」は書いてから十年後にたまたま見つかるんです。それを十年ぶりに川端康成は自分で読んでみて、こんなふうと言っているんです。

この祖父の姿は私の記憶の中の祖父より醜くかった。

私の記憶は十年間祖父の姿を清らかに洗い続けていたのだった。

(川野) なるほど。先程の名言の通りということになりますね。

忘れるに任せるということが、結局最も美しく思ひ出すということなんだな。

NHKラジオ深夜便『絶望名言』より





# 役員会議事録より

十二月十三日午後四時より庫裡にて、来年度の予算を審議することを主な議題として『定例役員会』を開きました。

以下審議・決議内容を報告します。

一、現状報告。  
今年度四月から十一月末日までの会計収支を報告。

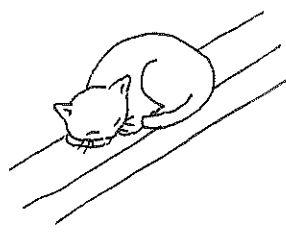
二、令和八年度行事・事業計画。  
除夜・修正会・施餓鬼会・彼岸会などは、今年度に準じて行い、行事に関する案内は、住職に一任。

三、「令和八年度一般会計予算」(案)は原案通り承認されました。

## 花園会のコーナー

### 米寿・百歳の方はお申し出下さい

花園会員(檀徒とその同居の家族の方)で米寿(数えの八十八才)と百歳をお迎えの方には本山の管長様からお祝いの手紙に添え記念品(輪袈裟)が頂けます。ご希望の方はご連絡下さい。令和八年は、昭和十四年生まれの方、昭和二年生まれの方が対象です。



## 「イス坐禅への道」

今年の五月三十日鎌倉円覚寺の夏期講座に参加させていただきました。

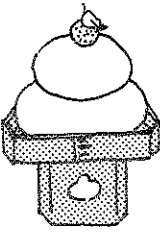
午後の部で「イス坐禅」を体験しハマッテしました。

善勝寺では年忌など法要の度ごと皆さんに読経して頂いておりますが、まず姿勢のことをお話しして読経の時は教本を顔のあたりまでしっかり上げて、一息をできるだけ長く読んでもらっています。

最後のお経となる「四弘誓願」の前で、改めて姿勢を正してもらい、ゆったりとした呼吸で五分間座ってもらっています。そして最後の四弘誓願文は超スローで読みます。するとなぜか皆おなかの底から声を出した「お経」になっていきます。約五十分間の法事は「イス坐禅」そのもので、やすらかな時になって頂いていることかと思えます。

今後さらに体をほぐすことなど、南嶺流「イス坐禅」を取り入れた法要にできたらと思っています。

横田南嶺老師の「イス坐禅」QRコードをご利用戴き日々の生活にお役立て下されば幸いです。



## 編集後記

\*遅くなりましたが『善勝寺だより』(百三十三号)をお届けします。

\*今年もいろいろなことがありました。でもあつという間の一年間でした。

年をとると、一日一日が、ひと月ひと月が、更に一年一年が速く感じられるとは聞いておりましたが、実感しております。だからこそこのひと時ひと時を大切にしなければいけないと思っております。

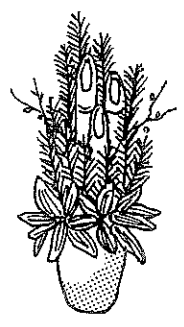
\*毎日毎日いつでもどこでもニコニコ笑顔で過ごして参りましょう

『をんニコニコ腹立てまいソワカ』

\*善勝寺のホームページを新しくなっています。この「善勝寺だより」もアップしています。

円覚寺『イス坐禅』も左のQRコードから見る事ができます。

\*令和八年が皆様にとってより良い年でありますように念じております。



「イス坐禅」のQRコード 善勝寺ホームページQRコード